

研修だより

糸島市立一貴山小学校
平成28年6月7日（火）
学力アップ部

6年1組の子どもたち、吉丸先生ありがとうございました！

校長先生より

【子どものよさ】

- ・先生と子どもの関係がとて面白い
- ・グループ交流スムーズでよかった
- ・学習に落ち着いて取り組んでいる。

【授業のよさ】

- ・星野さんの新聞記事の掲示
- ・並行読書の取組
- ・モデル文の紹介

【単元名】 『心に残った本について文章にまとめる』

【教材文】 「森へ」

【本時目標】

- これまでの読書体験を振り返り、グループで発表し合うことで、今後の読書生活の幅を広げることができる。（関心・意欲・態度）
- 自分の考えを明確に表現するために語句と語句との関係を理解し、文章全体の構成の効果を考えながら読むことができる。（読む）
- 自分の考えを明確にして、語句と語句の関係や構成を工夫して書くことができる。（書く）
- 文や文章には、いろいろな構成があることについて理解することができる。（言語）

【本時展開】

- 1 前時学習を想起し、本時学習のめあてをつかむ。
 - 前時までの学習内容と学習課題を振り返る。

筆者が伝えたかったことを読み取ろう。

- 2 「森はゆっくりと動いているのです」の意味を考える。

(1)教材文の写真や叙述をもとに考える。

- ・写真の下にネームカードを貼る。
- ・教材文の叙述から理由を考える。

(2)考えたことを対話する。。

- ・小集団交流→全体交流

小集団では、リーダーが進行役をつとめ、一人一人表現する。
友達の考えに対して一言感想を添える。
自分の考えと比較して共通点と差異点を考える。

3 筆者が伝えたかったことについて考える。

- ・全体交流

4 本字学習のまとめをする。

(1)付箋紙にまとめを書く

赤の付箋紙＝本時学習に関して

青の付箋紙＝単元全体の学び方に関して

(2)本字学習のまとめをする。

学んだこと、考えたことに関して



【ネームカードをおく様子】



【テキストとの対話の様子】



【グループ交流の様子】

【協議会で話し合ったこと】

【吉丸先生自評】

- ・本時学習の目標の達成状況は、20%位である。
- ・手立ては、単元のゴールを示したこと、何文字かという視点から大切な文を1つに絞ったこと

【質疑応答】

- Q まとめでどんなよさを見つければ良かったのか？
A:一つだけが動くのではなく、みんなが動くこと。
- Q 小集団の交流はいつ頃から経験しているのか？
A:4年生の頃、他教科でもやっている。
- Q Iスタイルの板書の工夫は？
A:特になし
- Q 本時の『何を』生かして「書く活動」に行くのか？
A:「筆者の伝えたい文」を感想文に入れること。
- Q 写真の活用意図は？
A:8つの理由が出ると思ったが、でなかっただけ。
- Q 手引きになる『記述例』はどのように扱っているか？
A:見せていない。真似するから。
- Q ネームカードのかたよりは予想していたか？
A:集中するとは思っていた。いろいろ出るといいと思った。
- Q 授業のどこに重きをおいていたのか？
A:筆者の伝えたかったことについて考える。
- Q グループ交流は話し合い、感想を言うだけか？
A:同じ所と違うところを聞きあった。

【意見交流】

- 研究主任であるという自覚と責任をしっかり持つべき。
- 事前研で意見が出たことに対しては、改善しなくても、何らかの答えをもって研究授業に臨むべき。
- 本単元の目標は、『書くこと』で感想文である。しかし、研究構想では、『読むこと』としている。教材研究が全く足りていない。
- 『テキスト・他者・自己』の対話を位置づけるだけでは、研究にならない。そこに条件や手順を付けて、研究の内容をとしてまとめることが必要である。
- 自評の仕方は、①本時目標とその手立て②達成状況③その判断理由④課題と改善点とわかりやすくすべき。

【校長先生のまとめ】

①めざす子どもの姿の具体化

- ・言葉の整理をすることと、各学年の系統化を図り、めざす姿を明確にしていくこと

②学習指導過程の工夫

- ・「情報の取り出し」→「解釈」→「読み深める」→「整理・評価」
- ・「テキストとの会話」＝発問の工夫、アンダーライン、言葉の抜き取り、比較読み
- ・「他者との対話」＝対話活動の形態の工夫、ランキング等の発問の工夫
思考を揺さぶる切り返しの問いかけ、構造的な板書の工夫
- ・「自己との対話」＝色の違う付箋紙の活用、自己評価カードの工夫

③学習課題のつかませ方

- ・子ども自ら課題をつかむために、単元を貫く言語活動の設定、単元全体の見通し
- ・毎時間、何ができるようになったかを子どもたち自身に把握させる
- ・子どもの実態に応じた言語活動の設定

④グループ交流と全体交流のねらいの明確化

- ・グループ交流と全体交流のちがい（ねらい）を明らかにする

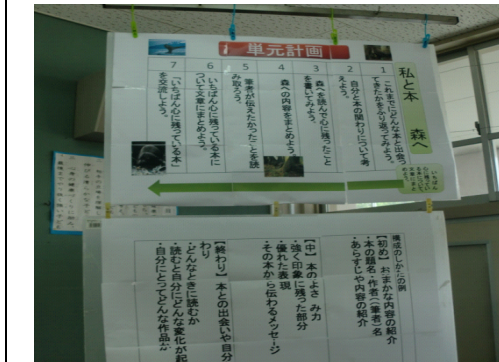
★研究構想は付加修正していくものであるので、更新していくことが大切！



【全体交流の様子】



【全体交流の工夫】



【既習図】

